

認定を受けている課程を有する学科等の教員養成に対する理念及び設置の趣旨等

平成 28 年 4 月 1 日更新

● 人文学部人文学科 哲学・芸術論コース（高一種免（公民））

教員養成に対する理念・構想

人文学部人文学科は、人類文化をその思想、精神、芸術及び身体並びに社会構造、歴史及び言語文化の総合的側面から多角的に考察し、多様化及び国際化する現代社会のあらゆる局面において、グローバルな多文化共生社会に発信しうるコミュニケーション能力をもって、国内外でリーダーシップを発揮して活躍できる人材を養成することを目的としている。

学部のディプロマ・ポリシーのもと、広い教養知に支えられた専門知識と、思索力・批判力・開拓力・受容力・メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力・問題解決能力・企画構想能力等の諸能力を総合的に修得することを通じ、7つの履修コースのうち、4つのコースで、下記の教員の養成を目指す。

本コースは、混迷する現代社会にあつて、哲学的な思索力・批判力と、芸術的感性をともに備え、創造的な未来を切り拓くことができる公民科教員の養成を目指す。

哲学・芸術論コースは、透徹性と包摂性を併せ持つ人間観を備えた人材を育成すべく、哲学・思想論分野と芸術コミュニケーション分野を統合した領域横断型の履修コースである。「領域横断型」とは言うものの、元来、芸術活動に対する理論的探究とその教育には、哲学的・思想史的知見による裏打ちが必要とされ、また、包括的な人間理解を目指す哲学的探究は、美学をその一部門とすることからも明らかなように、具体的な芸術活動への幅広い知見を必要とする。本コースにおいては、こうした両学問分野の必要を最大限に満たすことで、研究と教育における機能を向上させている。

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察・理解し、人間としての在り方生き方についての自覚を持ち、平和で民主的な国家・社会の形成に自ら参画する公民を育成することが、まさに公民科教育の目的であるが、哲学・倫理的な諸思想・諸原理への理論的知見とともに、芸術文化への柔らかな感性と感性面における人間理解をも培う本コースにおいて研鑽を積むことにより、公民科教員としてそうした全人格的陶冶を実現できる人材の養成を目指す。

教職課程の設置趣旨

人文学に期待される人材像は、直接的に「物」に働きかける技術・技能（道具・器（スキル））、いわば「モノづくり」ではなく、理念や目標を的確に伝え、人の内面に訴えかけ、動かし、人をまとめる、豊かな人格的魅力（徳・人間力）の涵養、すなわち「人づくり」にあることが、いよいよ緊急かつ深刻な課題であるとの、強い社会的要請がある。また、多様化とグローバル化の度を加速し、複雑化し混迷を深める現代社会の諸相にあつて惹起される諸問題に対処するためには、もはや特定の専門分野の知識の修得だけでは困難な状況にあり、人文学全般に亘る幅広い視野・知見が求められる。これらに応えるためには、(ア)歴史、文化への幅広い教養知と倫理観に裏打ちされた全人格的なバランスのとれた人間的魅力（人間力）を基盤とし、(イ)いかなる状況下にも物事の本質的認識（洞察力）と明確な目標（問題発見・解決方策）を提示でき、これを(ウ)社会や構成員共有の認識・目標としうる発信力・共感的説得力（コミュニケーション力）を備え、(エ)それらを明晰な日本語及び外国語で表現できる能力（言語的理解、外国語能力）を身につけた人材の養成が不可欠である。これらの諸能力を修得した人材は、国際化・多元化・複雑化する現代社会の教育現場で、積極的に地域や生徒の中に入り込んで、さまざまな課題を共有しつつ、教員集団や教育組織の中核的存在となり、リーダーシップを発揮し創造的な未来を担うことができる。

人文学部は、上記の人材養成機能をベースに、交流協定を締結している自治体等を主なフィールドとし、

高大連携事業（中高一貫校をも含む）を積極的に推進し、その教育現場でのさまざまな問題点や成果を一般市民に向け公開の場で発表してきた。

開放型教員養成の原則に鑑み、人文学科の上記の養成人材像は、教員養成、特に教科ごとの高度な専門知識が必要とされる中学校及び高等学校教員にあつて最も必要とされるもののひとつであるとの認識に立ち、高い倫理観をもって常に現実と向き合い、豊かな教養知に支えられた汎用性ある専門知を備え、実践力と、コミュニケーション能力に優れた教員養成を行うため、7つの履修コースのうち4つのコースに下記の教職課程を設置する。

哲学・倫理学・東洋思想・西洋思想及び芸術論を中心に学ぶ本コースにおいては、政治上・経済上・法律上・倫理上の原理と諸事象、及び社会学的・心理学的な諸問題についての理解及び高度な専門性を身につけるとともに、生徒の主体的な考察を促し導く啓発力を育成する諸科目が適切に配置されており、平和で民主的な国家・社会の形成に自ら参画する公民としての資質を養う公民科教員の養成が可能であると考えられる。また本コースは、政治・経済・法律に関する諸科目も適切に配置しており、こうした面においても公民科教員に求められる資質を育成する上で十分な環境を整えていると考えられるため、高一種免（公民）の教職課程を設置する。

● 人文学部人文学科 歴史学コース（中一種免（社会）・高一種免（地理歴史））

教員養成に対する理念・構想

本コースは、日本及び世界の地理、歴史、法、政治、経済などに関する基礎知識を習得し、歴史文化に対する多元的な視点をもとに、人類社会を深く思索考察する能力と、それらを理解する受容力をもとに、現代の諸課題に取り組むことができる問題解決能力に優れた社会科教員・地理歴史科教員の養成を目指す。

本コースにおいては、従来の地域文化史・日本史・世界史の3分野が日本史・東洋史・西洋史の3分野に再編されたことにより、外国史はより広範囲において横断的かつ専門的な学習が可能になった。加えて地域文化史と日本史の分野が融合することによって、地域・時代ともに総合的な日本史の学習が可能であり、かつ古代史・中世史・近世史・近現代史の全時代にまたがる教員が配置されており、特定の時代に偏らない専門知識を身につけることができる。

グローバル化する国際環境の中で、日本や世界の地理、歴史、法、経済、政治に関する歴史的基礎知識を習得し、そのうえで国家や社会、文化の歴史法則性と関連づけ、過去の歴史を学ぶことによって、複雑化する現代社会を理解・把握するとともに、より良い未来を展望・構築する能力を涵養することができる。

本コースにおいて日本史・東洋史・世界史を総合的に学ぶことにより、地理歴史を中心とした社会科の各科目における高度な専門性を身につけるとともに、科目間の関連に配慮し、21世紀の日本の将来を担う子供たちを指導できる教員を養成することを目指す。

教職課程の設置趣旨

日本史・東洋史・世界史を中心に学ぶ本コースにおいては、日本や世界の地理や歴史、法や政治、経済などに関する基礎知識を修得し、その上で国家と社会や文化の国際環境と関連づけて考察・指導できる教員の養成が可能であると考えられるため、中一種免（社会）及び高一種免（地理歴史）の教職課程を設置する。

● 人文学部人文学科 英米言語文化コース（中一種免（英語）・高一種免（英語））

教員養成に対する理念・構想

英米文学・文化及び英語コミュニケーションを中心に学ぶ本コースにおいては、国際化・グローバル化・

多様化が進捗する現代社会において最も必要とされる英語の四技能（聞く・話す・読む・書く）全てに渡る言語能力と、国際的な視野及び多様な言語文化への洞察を持ち合わせた教員の養成を目指す。

本コースは、英語学及び英米文学を中核的な学問領域とする。英語学に関する授業では、英語の構造、英語の歴史的変化、英語の意味の変化、英語が伝わるしくみ、地域や時代や階層や人種によって異なる英語、英語と他言語との差異などを体系的に学習するとともに、それらにまつわる特殊問題を発展的に学ぶ。英米文学に関する授業では、イギリスの文学、アメリカの文学、アメリカの映像文化、そして様々な領域の文化さらにはイギリスとアメリカ以外の英語圏の文化事象などを体系的に学習するとともに、それらにまつわる特殊問題を発展的に学ぶ。これらの授業の最終的目標は、対象を分析し自ら問題を発見し解決しその成果を外に向けて発信できるようになることである。またコースの学問の基盤となる英語力（単なる英会話力ではなく、英語の四技能（聞く・話す・読む・書く）すべてにわたる英語力）を養成することは当然これらの目標の基礎にある。そういった言語や文化に関わる様々な事象を英語で学ぶとともに、自分の学問的成果を英語で発信でき対話的かつ創造的な姿勢で学問に参加できる英語力を身につけることを基盤的目標としている。また、異言語並びに異文化を学ぶことは、自言語並びに自文化の反省的考察を必然的に伴うという比較文化的視点を保持しながら教育を行っている。

このように英語という言語を基盤として様々な文化事象を学ぶ本コースは、国際化・グローバル化・多様化が進捗するとともに依然として偏見や紛争が絶えない現代社会において最も必要とされる人材、すなわち英語圏文化をはじめとする異文化と自文化に関する公正かつ開かれた広い視野を持つ人材を育成することを目標においており、このような教育目標を持つ本コースの卒業生が、教育に携わることによって、現代社会にとって有為な人材の育成に貢献することを目指す。

教職課程の設置趣旨

英米文学・文化及び英語コミュニケーションを中心に学ぶ本コースにおいては、国際化・グローバル化・多様化が進捗する現代社会において最も必要とされる英語の四技能（聞く・話す・読む・書く）全てに渡る言語能力と、国際的な視野及び多様な言語文化への洞察を持ち合わせた教員の養成が可能であると考えられるため、中一種免（英語）及び高一種免（英語）の教職課程を設置する。

● 人文学部人文学科 日本言語文化コース（中一種免（国語）・高一種免（国語））

教員養成に対する理念・構想

本コースは、日本の伝統的な文化と日本語の仕組みや構造への深い理解をもって、海外への発信力も兼ね備えた、優れたコミュニケーション能力を持つ国語科教員の養成を目指す。

具体的には、「古典から現代にいたる文法体系に関する指導能力」、「歴史的背景などに注意して古典を読むことや古典に関する指導能力」、「近代以降の代表的な作家の作品に関する指導能力」「経験したことを記録・報告する活動や、相手を説得するために意見を述べ合う活動、知識や経験を活用して論述する活動に関する指導力」を持つ教員の養成を目指す。

日本言語文化コースは、日本語・日本文学概論、日本語・日本文学史、漢文学要説等の多彩な講義科目によって、古代日本語から現代日本語（方言を含む）、古典から現代文学にいたる日本の言語、文学、文化に関する広範な知識を獲得しつつ、言語や言語表現に対する批判的な思考力を養う。また、日本語学・日本文学基幹演習、日本語・日本文学発展演習等の演習科目、卒業論文の執筆によって、日本の言語、文学、文化についての調査方法や分析能力、論理的表現力を実践的に修得する。日本言語文化コースの講義科目によって修得した能力は、新学習指導要領の実施による教育内容改善ポイントでもある、伝統や文化について理解を深め、そのよさを継承・発展させるための「古典から現代にいたる文法体系に関する指導能力」、

「歴史的背景などに注意して古典を読むことや古典に関する指導能力」、「近代以降の代表的な作家の作品に関する指導能力」と合致するものである。

また、日本語文化コースの演習科目、卒業論文の執筆によって修得した能力は、やはり、新学習指導要領の実施による教育内容改善ポイントでもある、思考力・判断力・表現力等をはぐくむための「経験したことを記録・報告する活動や、相手を説得するために意見を述べ合う活動、知識や経験を活用して論述する活動に関する指導力」と合致するものである。

教職課程の設置趣旨

日本文学・文化及び日本語の仕組みや構造を中心に学ぶ本コースにおいては、文学・語学の歴史や伝統、文法体系など、新学習指導要領における「日本の伝統や文化について理解を深め、そのよさを継承・発展させる」ための高度な専門知識及び思考力・判断力・表現力等を指導するための実践的能力を修得した教員の養成が可能であると考えられるため、中一種免（国語）及び高一種免（国語）の教職課程を設置する。

- 教育学部学校教育教員養成課程（幼一種免・小一種免・中一種免（国語）（社会）（数学）（理科）（音楽）（美術）（保健体育）（技術）（家庭）（英語）・高一種免（国語）（地理歴史）（公民）（数学）（理科）（音楽）（美術）（保健体育）（家庭）（英語）・特支一種免（知・肢・病）

教員養成に対する理念・構想

教育学部は、信州の恵まれた自然環境と教育を尊重する県民の気風・風土の中で、豊かな人間性と専門的知識の涵養及び臨床経験等の実践によって、教育の専門家に求められる基礎的能力を身につけた人材の養成を図るため、附属学校園との一体化はもとより、教育委員会や諸学校との連携を深め、地域や家庭との協力のもと、実践的な知の体系としての「臨床の知」の習得を目指した教員養成課程を設置している。

具体的には、

- 教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観
- 教育活動を支え実現する上で不可欠な専門的知識・技能
- 他者と協働して教育活動をつくる社会的スキル
- 理論と実践を往還する省察と改善の態度

を身につけた人材の養成を目的としている。

この学部の理念を前提に、学校教育教員養成課程においては、初等教育と中等教育の連続性を重視しながら、義務教育教員及び特別支援学校教員の養成を中心に据えつつ、社会の変化や児童生徒の成長・発達過程で生ずる多様な問題に迅速かつ柔軟に対応できる教員の養成を目的としている。

教職課程の設置趣旨

▷ 現代教育コース

現代の新しい教育に求められる4領域の専門性（教育実践科学、異文化間教育、ICT活用教育、発達・教育心理）を身につけることを通して、現代の子ども・学校・社会の現実的課題をしっかりと見据え、適切に対処できる「臨床的な実践力」を持った教員の養成を目的とする。

▷ 野外教育コース

信州の豊かな大自然の中で行われる登山やキャンプなどの「自然体験活動」が指導できる教員の養成、スキー・スケートが盛んな地域のニーズに応える「冬季スポーツ」が指導できる教員の養成、さらに、頻繁に発生する自然災害から「自らの命を守る安全教育」に取り組むことができる指導力を備えた小学校教員・中学校教員（保健体育）の養成を目的とする。

▷ 国語教育コース

教育活動に限らず，人間世界のあらゆる社会的活動は「ことば」によってなされている。その「ことば」を学びの核とし，母語としての日本語の特質，日本の言語生活・言語文化の特色，日本語の表記や表現，子どもの発達とことばの学び，国語教育の歴史などを探求することで，確かな言語観と豊かな人間性に支えられた教員の養成を目的とする。

▷ 英語教育コース

英語教育を通して次代を担う学生たちの幅広い人間性を育成するという教育目標のもと，教育活動において自信をもって英語を担当できる知識と教養を身につけるとともに，様々な演習などを通じて確かな指導力と，豊かな人間性をもった教員の養成を目的とする。

▷ 社会科教育コース

地理・歴史・公民の各分野の知識を深めることを通じて，自身の興味・関心を充実させ，社会的問題について多角的・多面的に考える力を養うと共に，豊かな人間性と確かな指導力に裏付けられた社会科教育を実践できる教員の養成を目的とする。

▷ 数学教育コース

学校教育における算数・数学の教員として必要とされる，数学に関する学問的知識及び算数・数学の学習指導に関する専門的知見と力量を持った教員の養成を目的とする。

▷ 理科教育コース

物理学，化学，生物学，地学などの個別科学における専門的学習や理科教育の理念・目標，指導法，授業研究などの学修を積み重ね，論理的で科学的なものの見方，考え方ができるとともに，実践的な指導力を備え，自然科学に対する幅広い基礎知識，基礎能力を持ち，理科が好きで，その面白さをいきいきと児童生徒に伝えられる教員（理科の伝道師）の養成を目的とする。

▷ 音楽教育コース

音楽教育の意義や役割について理解し，指導や支援に関わる確かな力量を身につけ，豊かな音楽性と心打つ音楽を創造できる能力を育み，専門的な知識と技能を支えに，子ども一人ひとりの個性や特性を重視して，柔軟な教育的対応ができる教員の養成を目的とする。

▷ 図画工作・美術教育コース

美術を通じた人間形成という美術教育の基本理念を前提に，美術教育の意味や価値を理解し，美術を実技・理論・教育臨床等の様々な側面から学ぶことで，指導者に必要とされる高い専門性と力量を身につけ，子ども一人ひとりの美術的感性や表現・鑑賞の資質と能力を育むことができる人間性豊かな教員の養成を目的とする。

▷ 保健体育コース

理論と実践を有機的に結びつけた最新の身体科学や運動理論を深く学ぶとともに，保健体育教育の基盤となる運動技能と学習指導力を習得し，小学校の体育，中学校の保健体育の授業をより興味深くまた面白く指導することができる，専門的力量と豊かな人間性を持った教員の養成を目的とする。

▷ ものづくり・技術教育コース

子どもが発達成長するうえで重要な要素であるものづくりの経験と技能を大切にし，エネルギー，生物育成，情報，加工に関連するさまざまな専門（技術）を学び，技術・情報・環境について指導できる中学校技術（技術・家庭科技術分野）の教員及びものづくりや環境の課題・問題に対応した指導のできる小学校教員の養成を目的とする。

▷ 家庭科教育コース

家庭科教育の理念，目標，指導法，授業研究などについて学ぶとともに，家庭科の基盤となる家庭経営

学、被服学、食物学、住居学、保育学などの専門的知識を深め、生涯にわたる生活を計画し、「生活の質」(QOL)の向上を考える力を持った中学校、高等学校における家庭科を専門とする教員や小学校における家庭科を担当する教員の養成を目的とする。

▷ 特別支援教育コース

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、主として知的障害、肢体不自由、病虚弱による生活や学習上の困難を抱える幼児児童生徒について、個々の困難を改善又は克服するための適切な指導及び必要な支援を担うことのできる教員の養成を目的とする。

▷ 心理支援教育コース

人間の心を科学的に研究する学問である心理学をベースに、発達・適応上の問題(いじめ、不登校、発達障害、非行など)や“こころ”の問題(うつ病、自傷・自殺、虐待など)など、心理支援を必要とする子どもの個別のニーズに対応できる専門的知識とスキルを持った教員の養成を目的とする。

● 理学部数学科(中一種免(数学)・高一種免(数学))

教員養成に対する理念・構想

理学部の教育目標の一つは、「専門分野についての深い知識を有するとともに、専門分野を越えた課題にも柔軟に対処できる、広い視野と適応性を兼ね備えた、社会に役立つ人材を育てる」である。理学部における教員養成は、この教育目標を踏まえ、教育に対する強い情熱と使命感、総合的な人間力を備えた人材を育成することを目指している。

数学科の教員養成の理念は、論理的思考力・柔軟な発想力を持った生徒を育てることが出来る人材を養成することである。従って、養成したい教員像は、豊かな専門知識を持つばかりでなく、主体的に物事を考えることが出来、また論理的な考え方や柔軟な発想のできる教員である。これを実現させるために、数学科では、専門的な数学の講義・演習を行うだけでなく、基礎的な数学についても多くの演習の授業を行う。卒業研究にも力を入れ、主体的に物事を考える習慣が身につくようなカリキュラムを実施する。

教職課程の設置趣旨

教員養成に対する理念・構想に基づき、豊かな人間性と専門的知識や能力を身につけた明日の教育を担う人材を育成することを目的とし、開放制教員養成の原則を踏まえて、教職を志望する学生にできる限り教職課程を履修する機会を与えるため、数学教員の養成を目的とした教職課程を設置する。学科の教育課程では、高等学校の数学に続く伝統的な専門数学である代数学・幾何学・解析学がバランスよく学べ、さらに、確率論・統計学やコンピュータ関連の授業も充実している。また、講義・演習・卒業研究等を通して、現代数学の専門知識・論理的思考力・柔軟な発想力を身につけさせる。そのため、当該学科の学生は、数学の専門知識・論理的思考能力・柔軟な発想力を十分に有していると考えられる。これを活かすのに最も適した職業のひとつが数学教員であることから、中一種免(数学)および高一種免(数学)の教職課程を設置する。

● 理学部理学科(中一種免(理科)・高一種免(理科))

教員養成に対する理念・構想

理学部の教育目標の一つは、「専門分野についての深い知識を有するとともに、専門分野を越えた課題にも柔軟に対処できる、広い視野と適応性を兼ね備えた、社会に役立つ人材を育てる」である。理学部における教員養成は、この教育目標を踏まえ、教育に対する強い情熱と使命感、総合的な人間力を備えた人材を育成することを目指している。

自然科学の多様性に対応できる幅広く、深い知識と問題解決能力を養成するために、物理学、化学、地球学、生物学、物質循環学の5コースの特徴を生かした視野の広い、対応力の高い教職課程教育を施す。

教員養成においては、専門知識を修得し、それに基づいて自由に発想し、豊かな創造力を発揮できる人材を目標としている。知識は知っているだけでなく、自ら考えて活かすことが重要であり、講義、実験、演習の各授業を有機的に結びつけた教育課程により、理科の専門知識の修得過程を通して知識の活かし方も修得できるようにする。その自らの経験に基づいて、自然現象に関心を持つ「理科好き」な人材の育成を行える教員を養成する。

そのため、自然界の多様な物質の構造や性質、現象を貫く原理や法則について、物理分野の教職科目によって普遍的な視点を養うとともに、化学分野で個別的な分析、無機、有機および物理化学の4分野を柱として、化学の基礎理論と実験技術の修得を重視した教育を行い、物質創成や生活・環境分野などにおける物質化学の諸課題に柔軟に対応できる素養と実践力を養う。これらを基盤として、人を取り巻く自然や生物、物質環境の理解や保全、改良等への対応力を、地球学、生物学および物質循環学分野の科目群で養う。信州の恵まれた自然を対象に溪流・湖沼・里山等における物質の流れ（物質循環）を通して環境変化を理解し、人の営みと自然環境との関わりを実践的に学ぶとともに、北アルプスとフォッサマグナに挟まれた地の利を存分に生かし、実習を重視する教育を通じて地質分野についての深い知識と環境保全や防災などへの関心を高める。また、遺伝子治療や遺伝子導入作物などのマイクロな問題や地球温暖化や生物多様性などのマクロな問題に直面する生物学的社会問題や生物学の発展に寄与しうる人材を育成する。

これらの教育を通して、自然現象や環境問題を物理学・化学・地質学・生物学などの基礎科学をベースに広い視野から理解するとともに、教職に対して強い情熱と使命感、ならびに総合的な人間力を備えた明日の教育を担う人材を育成する。

教職課程の設置趣旨

「理科好き」な教員による専門知識を活かした研究現場を目の当たりにしながら専門知識を修得するので、その過程で発想力や創造力を養い、高い指導力を身につける事ができ、理科教員として十分な能力を養成できる。物理学、化学、地球学、生物学、物質循環学の5コースの多様な教育課程による教育は、幅広い視点と深い知識をもつ理科教員養成（中一種免（理科）および高一種免（理科））にふさわしい。理科の専門知識の深く、幅広い修得にとどまらず、修得過程を通して身に付けた自然の捉え方・探求手法を生かし、中高生の目を自然に向けさせ、自然の法則に関心を持つ「理科好き」の生徒を発掘・育成できる。とくに、実験、実習、演習を重視した実践的な教育力を備えた理科教員を養成するために教職課程を設置する。

そのため、物質の構造や性質および自然現象に関する原理や法則などの普遍的な物理的素養を基盤として、各論的な物質化学の基礎理論、実験技術および研究手法をバランスよく学び、その過程で培った自然観や探究心を生かして、中高生の自然に対する興味を喚起しうる人材に育てる。化学の先には生物化学的課題があり、またマイクロからマクロレベルまでの生物学の幅広い基礎理論の習得が必要である。生化学実験的教育や生物多様性などのフィールドワークに力点を置いた教育はこの目的に叶っている。さらに、山岳、湖沼の豊かな自然を生かした野外実習を通して自然と人間との関わりや環境保全などの豊富な知識・経験を育むと同時に、環境科学等の学際的要素を加えて応用力を高め、自然現象・環境問題を様々な視点から捉えることのできる適応性の高い人材を養成する。これらの実践的な幅広い教育を通して育成した人材は、自然科学に対する情熱に溢れ、やがて「理科好き」の生徒を発掘・育成する理科教員に成長するはずである。

● 工学部物質化学科（中一種免（理科）・高一種免（理科）（工業））

教員養成に対する理念・構想

工学部では、「恵まれた自然環境の中で個性を生かし、基礎的学力の素養のもとに、工学の幅広い専門的知識を持ち、社会の様々な課題を発見・解決できる工学系高度専門職業人の養成」「科学技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献し、高度情報化社会における学際的技術の研究開発や国際化に対応できる人材を養成」を理念として掲げ、それらを実現するため、1年次に豊かな教養、自然科学の基礎を学習し、2年次以降に専門分野の教育プログラムに軸足を置き専門知識を学びつつ、エンジニアリング科目に代表される学際分野の専門基礎科目を修得させる。教員志望の学生に対しては、それに加えて教職支援センター（教職教育部）と協働した、教員としての専門的な知識・技能、使命感や責任感等を身に付け職務を支障なく実践できる教育プログラムを構築し、各学科の特色を生かした工学的センスを持った教員の養成を目指す。

工学部物質化学科では、環境・エネルギー等の社会的問題に関心を持ち、これらに関連する自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方により社会的課題解決に結びつく基礎技術開発やイノベーションへと繋げられる知識やスキルを兼ね備えた教育人を育成することを使命とし、講義・実験・演習・卒業研究等の体系的な教育カリキュラムの下、工学を俯瞰して見ることのできる能力をもつ教員、「イノベーションの核となる理工系人材」や「ものづくりの楽しさ・大切さを伝えることのできる理工系人材」を育成できる教員の養成を目指す。

教職課程の設置趣旨

中一種免（理科）・高一種免（理科）

学習指導要領（中学理科）には「自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。」という目標が、また、学習指導要領（高校理科）には「自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。」という目標が示されている。これらの目標は教員養成に対する理念・構想で示した「環境・エネルギー等の社会的問題に関心を持ち、これらに関連する自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方により社会的課題解決結びつく基礎技術開発やイノベーションへと繋げられる知識やスキルを兼ね備えた教育人を育成する」と合致することから理科の教職課程を設置する意義がある。

高一種免（工業）

学習指導要領（工業）には「工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境及びエネルギーに配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、工業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。」という目標が示されている。この目標は教員養成に対する理念・構想で示した「環境・エネルギー等の社会的問題に関心を持ち、社会的課題解決のため基礎技術開発からイノベーションへと繋げる体系的な工学知識・スキルと意欲を兼ね備えた教育人を育成すること」と合致することから工業の教職課程を設置する意義がある。

本学科においては、理科と工業の内容を併せ持った教育体系を構築しており、更に学生自身が選択する各教育プログラムの履修によって、理科・工業のそれぞれの知識に加え幅広い知識、全体を俯瞰して見ることのできる能力を兼ね備えた教員を養成することが可能である。以上のことから物質化学科に「理科」

「工業」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考える。

● 工学部電子情報システム工学科（中一種免（数学）・高一種免（数学）（情報）（工業））

教員養成に対する理念・構想

工学部では、「恵まれた自然環境の中で個性を生かし、基礎的学力の素養のもとに、工学の幅広い専門的知識を持ち、社会の様々な課題を発見・解決できる工学系高度専門職業人の養成」「科学技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献し、高度情報化社会における学際的技術の研究開発や国際化に対応できる人材を養成」を理念として掲げ、それらを実現するため、1年次に豊かな教養、自然科学の基礎を学習し、2年次以降に専門分野の教育プログラムに軸足を置き専門知識を学びつつ、エンジニアリング科目に代表される学際分野の専門基礎科目を修得させる。教員志望の学生に対しては、それに加えて教職支援センター（教職教育部）と協働した、教員としての専門的な知識・技能、使命感や責任感等を身に付け職務を支障なく実践できる教育プログラムを構築し、各学科の特色を生かした工学的センスを持った教員の養成を目指す。

工学部電子情報システム工学科では、電気電子・通信システム・情報システムの最新技術を通して持続可能な社会の実現へ貢献できる教育人を育成することを使命とし、講義・実験・演習・卒業研究等の体系的な教育カリキュラムの下、情報通信分野の基礎となる数理学と自然科学の基礎から応用に至るまでの豊かな知識や柔軟な論理的思考力を兼ね備え、また、それらを相互に結び付けて応用する実践的な能力を兼ね備えた教員の養成を目指す。

教職課程の設置趣旨

中一種免（数学）・高一種免（数学）

学習指導要領（中学数学）には「数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。」という目標が、また、学習指導要領（高校数学）には「数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数理的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。」という目標が示されている。これらの目標は教員養成に対する理念・構想で示した「情報通信分野の基礎となる数理学と自然科学の基礎から応用に至るまでの豊かな知識や柔軟な論理的思考力また、それらを相互に結び付けて応用する実践的な能力を兼ね備えた工学的センスを持つ教員の養成」と合致することから数学の教職課程を設置する意義がある。

高一種免（情報）

学習指導要領（情報）には「情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における情報の意義や役割を理解させるとともに、情報社会の諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、情報産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。」という目標が示されている。この目標は教員養成に対する理念・構想で示した「電気電子・通信システム・情報システムの最新技術を通して持続可能な社会の実現へ貢献できる教育人を育成すること」と合致することから情報の教職課程を設置する意義がある。

高一種免（工業）

前述の学習指導要領（工業）に示される目標は教員養成に対する理念・構想で示した「電気電子・通信システム・情報システムの最新技術を通して持続可能な社会の実現へ貢献できる教育人を育成する」と合

致することから工業の教職課程を設置する意義がある。

本学科においては、数学、情報及び工業の内容を併せ持った教育体系を構築しており、更に学生自身が選択する各教育プログラムの履修によって、数学・情報・工業のそれぞれの知識に加え幅広い知識、全体を俯瞰してみることでできる能力を兼ね備えた教員を養成することが可能である。以上のことから電子情報システム工学科に「数学」「情報」「工業」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考える。

● 工学部水環境・土木工学科（中一種免（理科）・高一種免（理科）（工業））

教員養成に対する理念・構想

工学部では、「恵まれた自然環境の中で個性を生かし、基礎的学力の素養のもとに、工学の幅広い専門的知識を持ち、社会の様々な課題を発見・解決できる工学系高度専門職業人の養成」「科学技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献し、高度情報化社会における学際的技術の研究開発や国際化に対応できる人材を養成」を理念として掲げ、それらを実現するため、1年次に豊かな教養、自然科学の基礎を学習し、2年次以降に専門分野の教育プログラムに軸足を置き専門知識を学びつつ、エンジニアリング科目に代表される学際分野の専門基礎科目を修得させる。教員志望の学生に対しては、それに加えて教職支援センター（教職教育部）と協働した、教員としての専門的な知識・技能、使命感や責任感等を身に付け職務を支障なく実践できる教育プログラムを構築し、各学科の特色を生かした工学的センスを持った教員の養成を目指す。

工学部水環境・土木工学科では、安全・安心で快適な水の創出や人々の生命や財産を守る社会施設を整備するための社会基盤、環境防災、地域計画などの生活環境に関する社会的問題に関心・探究心を持ち社会に貢献出来る教育人を育成することを使命とし、講義・実験・演習・卒業研究等の体系的な教育カリキュラムの下、自然の事物・現象についての理解を通じて将来、社会と地域の発展のために活躍できる幅広い見識・総合的な問題解決能力を兼ね備えた人材を育成できる教員の養成を目指す。

教職課程の設置趣旨

中一種免（理科）・高一種免（理科）

前述の学習指導要領（中学理科）、（高校理科）に示される目標は、本学科で取り上げる「水」というキーワードに体系づけられる自然の事物・現象の理解を深める教育、安心・安全な水の創出、管理を通じた水環境の保全に代表される総合的な問題解決能力を身につける教育と合致することから理科の教職課程を設置する意義がある。

高一種免（工業）

前述の学習指導要領（工業）に示される目標は教員養成に対する理念・構想で示した「人々の生命や財産を守る社会施設を整備するための社会基盤、環境防災、地域計画などの生活環境に関する社会的問題に関心・探究心を持ち社会に貢献出来る教育人を育成する」と合致することから工業の教職課程を設置する意義がある。

本学科においては、理科と工業の内容を併せ持った教育体系を構築しており、更に学生自身が選択する各教育プログラムの履修によって、理科・工業のそれぞれの知識に加え幅広い知識、全体を俯瞰してみることでできる能力を兼ね備えた教員を養成することが可能である。以上のことから水環境・土木工学科に「理科」「工業」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考える。

● 工学部機械システム工学科（中一種免（理科）・高一種免（理科）（工業））

教員養成に対する理念・構想

工学部では、「恵まれた自然環境の中で個性を生かし、基礎的学力の素養のもとに、工学の幅広い専門的知識を持ち、社会の様々な課題を発見・解決できる工学系高度専門職業人の養成」「科学技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献し、高度情報化社会における学際的技術の研究開発や国際化に対応できる人材を養成」を理念として掲げ、それらを実現するため、1年次に豊かな教養、自然科学の基礎を学習し、2年次以降に専門分野の教育プログラムに軸足を置き専門知識を学びつつ、エンジニアリング科目に代表される学際分野の専門基礎科目を修得させる。教員志望の学生に対しては、それに加えて教職支援センター（教職教育部）と協働した、教員としての専門的な知識・技能、使命感や責任感等を身に付け職務を支障なく実践できる教育プログラムを構築し、各学科の特色を生かした工学的センスを持った教員の養成を目指す。

工学部機械システム工学科では、産業技術社会で活躍できる柔軟な発想と創造性に富む機械系エンジニアを養成できる教育人を育成することを使命とし、講義・実験・演習・卒業研究等の体系的な教育カリキュラムの下、複雑な物理現象・自然及び社会が直面している環境問題を理解し、その問題を解決する基礎能力を身につけた教員、「ひとにやさしいものづくりができる理工系人材」を養成できる教員の養成を目指す。

教職課程の設置趣旨

中一種免（理科）・高一種免（理科）

前述の学習指導要領（中学理科）、（高校理科）に示される目標は教員養成に対する理念・構想で示した「複雑な物理現象・自然及び社会が直面している環境問題を理解し、その問題を解決する基礎能力を身につけた教員、「ひとにやさしいものづくりができる理工系人材」を養成できる教員の養成」と合致することから理科の教職課程を設置する意義がある。

高一種免（工業）

前述の学習指導要領（工業）に示される目標は教員養成に対する理念・構想で示した「産業技術社会で活躍できる柔軟な発想と創造性に富む機械系エンジニアの養成できる教育人を育成する」と合致することから工業の教職課程を設置する意義がある。

本学科においては、理科と工業の内容を併せ持った教育体系を構築しており、更に学生自身が選択する各教育プログラムの履修によって、理科・工業のそれぞれの知識に加え幅広い知識、全体を俯瞰して考えることのできる能力を兼ね備えた教員を養成することが可能である。以上のことから機械システム工学科に「理科」「工業」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考える。

● 工学部建築学科（高一種免（工業））

教員養成に対する理念・構想

工学部では、「恵まれた自然環境の中で個性を生かし、基礎的学力の素養のもとに、工学の幅広い専門的知識を持ち、社会の様々な課題を発見・解決できる工学系高度専門職業人の養成」「科学技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献し、高度情報化社会における学際的技術の研究開発や国際化に対応できる人材を養成」を理念として掲げ、それらを実現するため、1年次に豊かな教養、自然科学の基礎を学習し、2年次以降に専門分野の教育プログラムに軸足を置き専門知識を学びつつ、エンジニアリン

グ科目に代表される学際分野の専門基礎科目を修得させる。教員志望の学生に対しては、それに加えて教職支援センター（教職教育部）と協働した、教員としての専門的な知識・技能、使命感や責任感等を身に付け職務を支障なく実践できる教育プログラムを構築し、各学科の特色を生かした工学的センスを持った教員の養成を目指す。

工学部建築学科では、日常の身近な存在である工芸から地域に根ざした技術と用・強・美を併せ持つデザインを伝えることのできる教育人を育成することを使命とし、講義・実験・演習・卒業研究等の体系的な教育カリキュラムの下、人が生きていくために必要なデザインされた建築物をつくりあげ、地域から日本そして地球全体まで、また時代を超えて社会の発展に寄与できる人材を育成できる教員の養成を目指す。

教職課程の設置趣旨

前述の学習指導要領（工業）に示される目標は教員養成に対する理念・構想で示した「人が生きていくために必要なデザインされた建築物をつくりあげ、地域から日本そして地球全体まで、また時代を超えて社会の発展に寄与できる人材を育成できる教員の養成を目指す。」と合致することから工業の教職課程を設置する意義がある。

本学科においては、工業の幅広い知識、全体を俯瞰して見ることのできる能力を兼ね備えた教員を養成することが可能である。以上のことから建築学科に「工業」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考える。

● 農学部農学生命科学科（中一種免（理科）・高一種免（理科）（農業））

教員養成に対する理念・構想

農学部農学生命科学科は、信州の豊かな自然と風土のもとで、生命・食料・環境を支える農学を基盤とし、高度に進展する生命科学の視座を踏まえ、論理性、実践性、創造性、倫理性の高い教育と研究を行うとともに、自然と人が共生する持続的社会的創造を目指し、広い視野と課題探求能力、国際性を備えた人材を養成することを理念として掲げ、持続的社会的創造に貢献する人間性豊かで、生命科学分野の基礎能力と農学分野の応用能力を身につけた人材を育成する。また、社会の一員としての問題意識の醸成と論理性、実践性、創造性、倫理性を備え、地域（ローカル）および国際（グローバル）社会で活躍できる人材を養成する。教員養成においては、上記の理念ならびに養成する人材像をもとに、農学と生命科学の幅広い知識・技術と倫理観に裏打ちされた人間力を基盤とし、洞察力と問題発見・解決能力で普遍的な物事に対処、実践する能力を備え、教職に対する強い情熱と使命感をもった人材を養成する。農学は、生命・食料・環境に関する総合科学であり、人間の営みとその基盤となる自然環境が調和する持続可能な社会を構築するために不可欠な学術分野である。そのため、生物、化学、物理、地学などの基礎科学をベースに、農学を基盤とした生命科学分野のイノベーションによって現代社会が抱えている諸課題を解決することが期待されており、学科においては、生命機能科学、動物資源生命科学、植物資源科学、森林・環境共生学の4つの専門分野を設け、相互に協力しながら自然と人が共生する持続的社会的創造に向けた教育を行うこととした。

農学部は、上記の人材養成機能をベースに、産学官の連携組織「伊那谷アグリイノベーション推進機構」等の活動実績や海外連携協定大学等との教育研究プログラム・国際共同研究の成果を踏まえて、地域的な視野に加えて、国際的な視野をも有した農学系人材を養成することが可能であり、上記の理念・構想のもとで、これらの特色を活かした教員の養成を目指す。

教職課程の設置趣旨

農学を含む理工系高等教育機関には、自然豊かな環境のもとで自然の捉え方（フィールド研究）と探求

方法（ラボ研究）を連動させた教育を行うことに加えて、理念や目標を的確に伝え、人を動かしまとめる、豊かな人間力と知性の涵養が、強く要請されている。また、現代社会の諸課題に対処するためには、特定の専門分野の知識の修得に加えて、複合・境界領域さらには生命科学全般に亘る幅広い視野・知見が求められている。

農学生命科学科においては、生命機能科学、動物資源生命科学、植物資源科学、森林・環境共生学の4つの専門分野に応じたコースが設けられているが、1コースが1教科に対応するものではなく、全てのコースが理科と農業の内容を併せ持っている。教職課程においては、生命科学分野の基礎となる生物学、化学、物理学、地学等理科の科目群と、育種、園芸、畜産、環境等農業の専門科目群とに整理し、各教育課程の体系的性を確保・維持する。内容的にはいずれのコースも理科および農業の内容を含むことから、互いに補完する形で4分野が相互に協力しながら自然と人が共生する持続的社会的創造に向けた教育を行い、広く生物を対象に、物質レベルから個体、生態系に至る自然界での生命科学及び農学を幅広い視点で学修し、深い知識の涵養を目指すものである。そのため、中一種免（理科）、高一種免（理科）、高一種免（農業）の教職課程を設置し、生命科学及び農学を基盤とした複合・境界領域の識見を育成する。

中一種免（理科）・高一種免（理科）

学科の教育課程においては、生命科学分野の基礎となる生物学、化学、物理学、地学の各科目と近年著しく発展している生命科学に関する専門科目により、生命科学さらには複合・境界領域に関する知識が幅広く学べる。また、実験、演習を重視した実践的な教育と信州の豊かな自然を生かしたフィールドワークが充実しているため、座学ばかりではなく自然の中で理科の各分野を学びとることができる。

農学生命科学科の養成人材像は、教員養成、特に、教科ごとの高度な専門知識が必要とされる中学校及び高等学校教員の養成に合致する。教員養成の理念・構想に基づき、生命科学を柱とする新時代の農学の幅広い知識・技術と倫理観に裏打ちされた人間力を育み、洞察力と問題発見・解決能力で諸課題を乗り越える実践力・創造力を兼ね備え、コミュニケーション能力に優れた教員養成を行うため、中一種免（理科）と高一種免（理科）の教職課程を設置する。

高一種免（農業）

学科の教育課程においては、広大なキャンパスと信州の豊かな自然を生かしたフィールドワークを学修することに加えて、実学である農学と生命科学に関する授業の中で農業の関係科目（育種、園芸、畜産、農業経営、農業機械、食品製造、食品化学、微生物利用、植物バイオテクノロジー、動物バイオテクノロジー、森林科学、水循環、造園計画、環境緑化、測量等）を幅広く学ぶことができる。

農学生命科学科の養成人材像は、農学分野の高度な専門知識が必要とされる高等学校の教員養成に合致するものである。教員養成の理念・構想に基づき、農学と生命科学の幅広い知識・技術と倫理観に裏打ちされた人間力を育み、洞察力と問題発見・解決能力で普遍的な物事に対処し、実践する能力とコミュニケーション能力に優れた教員養成を行うため、高一種免（農業）の教職課程を設置する。

● 繊維学部先進繊維・感性工学科（中一種免（理科）・高一種免（理科）（工業））

教員養成に対する理念・構想

繊維・感性工学科の教員養成においては、人間の豊かな認知能力並びに外界に対する情報発信能力を客観的に捉え、信州大学が目指す教員養成理念及び本学科の設置を基盤とし、教育に対する強い情熱と使命感を持ち、国際的な視野で企画を立案し実行でき、幅広い工学系分野の知識を有した実務的な場で活躍できる人材の基盤を育成できる教員の養成を目指している。

教職課程の設置趣旨

中一種免（理科）・高一種免（理科）

先進繊維・感性工学科では、教員養成に対する理念・構想に基づき、豊かな人間性と専門的知識や能力を身につけた明日の教育を担う人材を育成することを目的とし、開放制教員養成の原則を踏まえて、教職を志望する学生にできる限り教職課程を履修する機会を与えるため、感性工学コースを中心に、理科教員の養成を目的とした教職課程を設置する。学科の教育課程では、高等学校の理科にふさわしく、物理および化学を中心に地学、生物に至るまでの専門科目をバランスよく履修する。また、講義・演習・卒業研究等を通して、国際性および基礎学力に裏打ちされた専門性を身に付けさせる。当該学科の学生は、理科の専門知識・論理的思考能力・柔軟な発想力を十分に有していると考えられる。これを活かすのに最も適した職業のひとつが数学教員であることから、中一種免（理科）および高一種免（理科）の教職課程を設置する。

高一種免（工業）

先進繊維・感性工学科では、教員養成に対する理念・構想に基づき、豊かな人間性と専門的知識や能力を身につけた明日の教育を担う人材を育成することを目的とし、開放制教員養成の原則を踏まえて、教職を志望する学生にできる限り教職課程を履修する機会を与えるため、先進繊維工学コースを中心に、工業教員の養成を目的とした教職課程を設置する。学科の教育課程では、高等学校の工業にふさわしく、工業の関係科目（応用統計学、人間工学、先進繊維工学実験、先進繊維工学実習、テキスタイルデザイン学、信号処理論、ヤーンテクノロジー、設計工学、熱工学、計測工学、品質管理工学、多変量解析、CAD実習、繊維材料学、ファイバー創成工学、実験計画法、インテリア工学、スポーツウエア設計工学等）を通して、工業科に関する専門知識と実験実習能力を身に付け、工業科に関する専門知識と実験実習、演習に必要な技能を修得する。当該学科の学生は、工業の専門知識と思考能力、発想力を十分に有していると考えられる。これを活かすのに最も適した職業のひとつが工業教員であることから、高一種免（工業）の教職課程を設置する。

● 繊維学部機械・ロボット学科（中一種免（理科）・高一種免（理科）（工業））

教員養成に対する理念・構想

機械・ロボット学科の教員養成においては、生物学と工学との融合によるカリキュラム構成を特色とし、基盤教育と高度専門教育を連動させ、学生が修得を希望する技術分野と学生の適性に合わせた実践的な教育を行う。特に、生物の機能と構造に学んで、限りなく人間に近い感覚と知能を備えた機械、さらに生物を超える性能をもつ機械を創成するために、機械工学およびロボット学を基礎とした基礎的な学力はもとより、教育に対する情熱と使命感、自らの知識と能力を持続的に高める知的好奇心と高度な力量、生徒の能力を引き出すことのできるコミュニケーション能力を備えた、明日の教育を担う人材を育成することを目指している。

教職課程の設置趣旨

機械・ロボット学科では、機械工学と生物学、電子工学、情報工学、などを統合した総合的な機械・ロボット学についての基礎能力と高度な専門知識を身につけた、明日の教育を担う人材を養成することを目指し、開放制教員養成の原則を踏まえて、教職を志望する学生にできる限り教職課程を履修する機会を与えるため、「理科」と「工業」の教員養成を目的とした次の教職課程を設置する。

中一種免（理科）・高一種免（理科）

機械・ロボット学科の教育課程においては、生物学と工学を統合した総合的な機械・ロボット学の基礎として、生物学、化学、物理学の自然科学とその複合・境界領域に関する知識が幅広く学べる。また、実

験、演習を重視した実践的な教育とそのものづくりへの展開を視野に入れた理科の各分野を学びとることができる。

機械・ロボット学科の養成人材像は、特に、教科ごとの高度な専門知識が必要とされる中学校及び高等学校教員の養成に合致する。教員養成の理念・構想に基づき、バイオエンジニアリングコースを中心に、生物学、物理学、化学を基礎とした機械・ロボット学の幅広い知識・技術と倫理観に裏打ちされた人間力を育み、洞察力と問題発見・解決能力で諸課題を乗り越える実践力・創造力を兼ね備え、コミュニケーション能力に優れた教員養成を行うため、中一種免（理科）と高一種免（理科）の教職課程を設置する。

高一種免（工業）

機械・ロボット学科の教育課程においては、工学と生物学を融合した新領域の専門知識を身につけるため、機能機械工学コースを中心に、工学の知識とそれを応用する能力を修得し、技術者としての実践力を養うとともに、問題解決に応用できる総合的な能力をもつ技術者、研究者を養成することを目的としている。また教育課程も機械工学、電子工学、情報工学などの幅広い工学分野をカバーしており、本学科の学生は工業の教員としての資質および教科に関する能力が高いと考えられるため、高一種免（工業）の教職課程を設置する。

● 繊維学部化学・材料学科（中一種免（理科）・高一種免（理科））

教員養成に対する理念・構想

化学・材料学科では、化学を基盤とする先端的ファイバー・材料に関する教育研究により、資源・エネルギー・環境問題、医療・健康分野に関する問題解決に役立ち、持続性のある社会に貢献するための能力を備えた人材の育成を目指している。教育課程においては、専門となる化学を中心に、現代の化学・材料研究では不可欠の物理および生物との融合領域に関する教育研究も行われており、「自然科学の探究」「ものづくり」の経験を通して、自然科学の探究と専門性を活かした社会貢献の意義と楽しさを知るとともに、教職に対する強い情熱と使命感、教育の専門家としての確かな力量と総合的な人間力を備え、明日の教育を担う教員を養成することを目標としている。そのために、当学科の基盤である化学の他、物理、生物、地学などの基礎ならびに専門的な自然科学の知識を身につけ、専門分野の先端的研究活動によって培われた自然科学への愛着、自然科学の探究の方法と魅力を自らの経験を活かして伝えることができる人材の育成を目指している。

教職課程の設置趣旨

化学・材料学科では、基盤とする化学の他、物理、生物、数学等の広範な自然科学分野を重視しつつ、繊維学部のミッションであるファイバー・繊維を念頭に置きながら、高分子材料、有機低分子材料、無機材料などの化学材料の開発、機能開拓に関する教育研究を実施している。3コースからなる化学・材料学科では多岐に渡る自然科学の領域の専門の教員による幅広い教育研究が行われている。特に4年次における卒業研究では、すべての学生が各指導教員のもとで先端的研究に取り組み、これまで身につけた自然科学の知識を基にして当該分野の世界的動向を調査するとともに、研究成果を積み上げ、研究成果を自ら発表する機会を経験する。この結果、4年間に渡る教育研究を通じて、化学を主として、その他の自然科学の知識を身に付けるとともに問題を解決できる能力を身につけ、柔軟でかつ国際的な視野を持ち、自然科学探究の方法、さらには社会貢献の意義や方法を学ぶ。当学科の教育研究の過程は中学ならびに高校理科教員を養成するためにも非常に有効に作用し、豊かな人間性と専門的知識及び実践に培われた基礎的能力を身につけた、明日の教育を担う人材を育成することが可能である。そのために中一種免（理科）及び高一種免（理科）の教職課程を設置する。

● 繊維学部応用生物科学科（中一種免（理科）・高一種免（理科））

教員養成に対する理念・構想

応用生物科学科は、生物の構造と機能に関する専門知識とそれを理解するための自然科学や情報科学に関する知識、さらに工学との連携によるバイオファイバー・バイオ素材の利活用をはじめとする多面的な課題への対応能力を身につけ、生命・食料・環境・医療等に関わる人材としての倫理観、国際的に通用するコミュニケーション能力等を持った人材を育成する。教員養成においては、上記の理念ならびに養成する人材像に加え、教職に対する強い情熱と使命感、生物資源の持続的な利活用が可能な社会の実現に向けた教育に貢献できる総合的な人間力を備えた人材を養成することを目指している。

教職課程の設置趣旨

応用生物科学科における教育では、生物の構造と機能に関して多様な視点からの知識を修得し、工学との連携によるバイオファイバー・バイオ素材の利活用をはじめとする多面的な課題への対応能力を身につけ、生物資源の持続的な利活用を目指せる人材を育てる過程で、応用生物学の分野の第一線で活躍する教員が当該分野の面白さや奥深さを生きた学問として提示できるので、理科教員に最も重要な「理科好き」なベースの上に高度な専門知識に裏打ちされた課題発見能力と課題解決能力を兼ね備えた人材が養成できる。そこで、将来教職分野で活躍したいと熱望する学生に、できる限り教職課程を履修する機会を与えることは極めて重要かつ意義あることと考え、中一種免（理科）及び高一種免（理科）の教職課程を設置する。